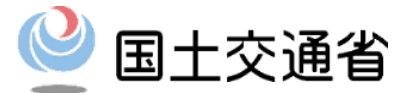


**令和5年度
都市空間情報デジタル基盤構築支援事業 説明会**

**令和4年度採択都市 事例発表
(令和5年6月)**

**青森県むつ市
都市整備部都市計画課**



1 むつ市の概要



01 行政区域面積

864.20
km²

02 行政区域人口

54,103
人

03 都市計画区域面積

158.31
km²

04 都市計画区域人口

49,427
人

1 むつ市の概要

01 アゲハの夜景



02 恐山



03 豊富な特産物

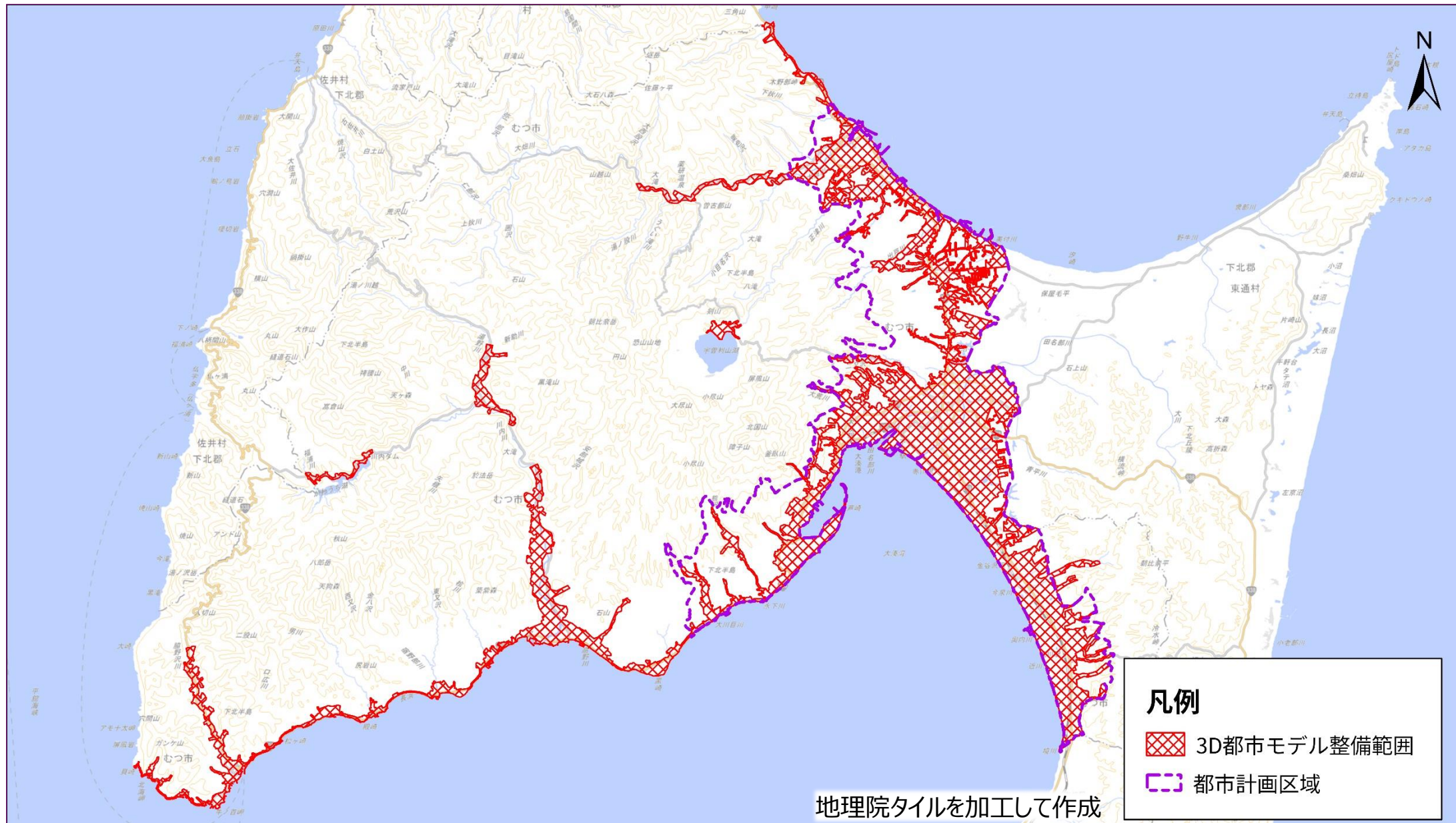


2 むつ市におけるPLATEAUの取組

R4年度実施事業		規模(配分ベース) 【百万円】		受注者
		事業費	国費	
(1)	3D都市モデルの整備範囲の現況把握等	2.0	1.0	株式会社パスコ
(2)	3D都市モデルの整備事業	6.0	3.0	
(3)	まちづくりにおける政策立案への3D都市モデル活用事業	0.5	0.25	
(4)	災害リスクの可視化への3D都市モデル活用事業	0.5	0.25	
(5)	3D表示ビューワーへのセットアップ及び導入	1.0	0.5	

総事業費 **1,000** 万円

2 むつ市におけるPLATEAUの取組



01 整備地物

建築物、道路、都市計画
決定情報、土地利用、
災害リスク、地形

02 対象区域

市域の一部

03 範囲抽出基準

ユースケース開発の活用に支障が出ないもの
とするため、都市計画区域及びハザードエリア
が含まれる区域で、建築物が確認できる範囲

⇒必要最低限

04 整備面積

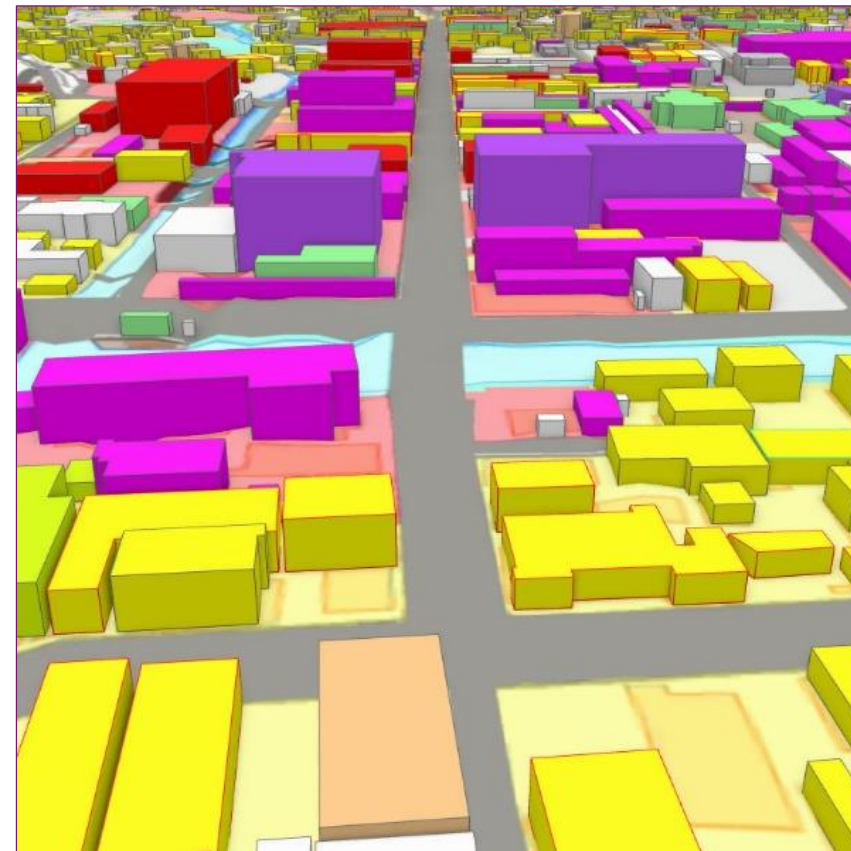
106.21 km²

行政区域面積の 12.3 %

2 むつ市におけるPLATEAUの取組

01 まちづくりにおける政策立案への3D都市モデル活用事業【都市計画・まちづくり】

目的	都市構造を立体的に可視化し、点在する未利用地の把握等を簡単にすることで、立地適正化計画等のまちづくり分野における施策検討の効率化を図る。
概要	都市計画基礎調査の結果から、「建物利用現況」と「土地利用現況」をCityGML形式に変換し、建物利用現況を属性情報として付与した3D都市モデルと土地利用現況図等を重ね合わせる。
実施体制/ 役割分担	株式会社パスコ
KPI	都市構造が分かりやすくなったと感じる担当職員の割合をR4年度に 50% 以上  50% で達成



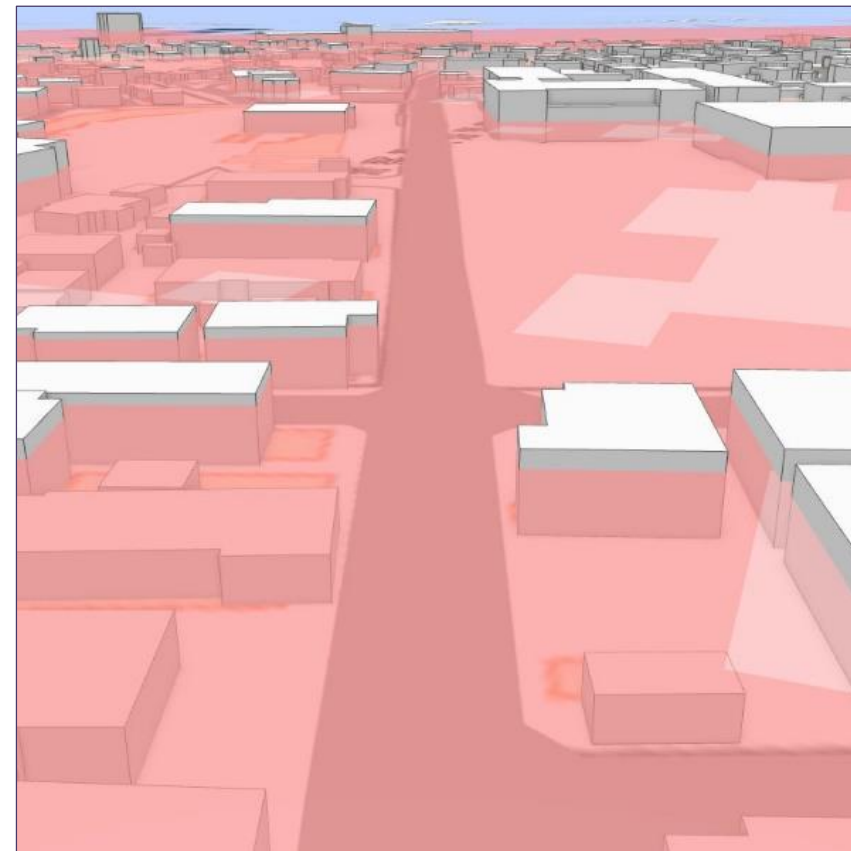
建物用途と土地利用の重畳表示

建物用途を属性情報として付与した建物モデルと土地利用現況を重ねて、都市構造の認知性を向上させることにより、まちづくり分野における施策検討の効率化を図る。

2 むつ市におけるPLATEAUの取組

02 災害リスクの可視化への3D都市モデル活用事業【防災・防犯】

目的	地域の災害リスクの認知性を高め、市民の防災意識の向上や、防災施策検討の効率化を図る。
概要	洪水浸水想定区域や津波浸水想定区域等の災害リスク情報を3次元化し、3D都市モデルと重ね合わせる。
実施体制/ 役割分担	株式会社パスコ
KPI	自主防災組織の数をR4年度に 36団体 (R3年度は32団体) ➡ 33団体 で未達



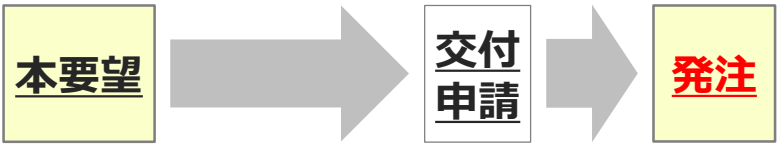
建物と津波浸水想定を重ね表示

建物モデルに浸水想定区域等を重畳することで、災害リスクを可視化し、災害リスクの認知性向上を図るとともに、防災施策検討の効率化や復興事前準備の機運の醸成を図る。

3 R4年度の実施フロー

国の動向

むつ市の動向



【要望までの経緯】

- ・概算要望〔21/10下〕
- ・R4予算要求に向けた内部説明〔11中〕
- ・UC開発に係る担当部署との調整〔11下〕
- ⇒**関連部局との円滑な調整には、普段から相互に情報共有をすることが重要**
- ・財務部局との予算ヒアリング〔12上～22/1中〕

【実施計画書】

- ・作成〔～4下〕
- ・協議 / 更新〔4下～8下〕

【データ取得・整備】

- ・データ収集・整理〔6下～7下〕
- ・3D都市モデル（LOD1）整備〔7中～2上〕※12上～はエラー修正

【ユースケース開発】

- ・建物データへの属性情報の付与〔9下～11下〕
- ・ハザードエリアの三次元化〔8上～11下〕

【オープンデータ / 可視化】

- ・G空間情報センターにて公開
- ・PLATEAU VIEWに掲載
- ・むつ市HP公開

01 既存資料の活用

3D都市モデル整備のために、新規で取得したレーザー測量成果等はなく、都市計画図の更新等もしていない。

⇒都市計画基本図をベースに、青森県や市税務課の協力により提供していただいた航空写真から建物データを修正し、現状と同様の3D都市モデルを整備

02 費用負担の妥当性

整備にかかる費用以上の価値を見出す。

⇒整備によりどのような効果がもたらされるかを考え、その効果が費用以上の価値になることを説明

5 苦勞した点

01 膨大な情報量と勉強量

CityGMLや3D都市モデルに関する基本的な情報、整備やユースケースの検討に向けた勉強量が**非常に膨大**、概算要望段階から業務終了まで多くの時間を要した

02 国交省や事業者との調整

専門的な知識も必要になる膨大な資料作成の数々と、発注後に変更となった標準仕様書への対応等、国交省や事業者との**調整力**が非常に重要で、バランスの取り方に苦勞した

03 庁内への浸透

スマートシティ部局にも様々な情報は共有するものの、理解が進まず、他部局から積極的な提案がなかったため、**事業の浸透を図る**ことに苦勞した

6 今後の展望

01 庁内への周知

PLATEAUサイトの周知などにより、むつ市の3D都市モデルを知ってもらい、
ユースケースの提案を促進、後進の育成

02 不動産IDとの連携

3D都市モデルに不動産IDを付与し、同IDに紐づいている様々な情報を重ね合わせ、
空き家の実態把握や発生予測シミュレーション

03 子どもの安全・安心なまちづくり

3D都市モデルを活用して死角となる箇所を抽出し、交通事故の発生状況等のデータも
重ね合わせ、**通学路の安全マップ**を作成



